

Part II

評価の手順

1. 基本的な考え方

Part II では具体的な評価方法を示すが、その前にCASBEE京都-既存の評価に対する基本的な考え方をここで整理しておく。

（評価対象範囲の考え方）

- ・CASBEE京都-既存は、建築物（戸建住宅を除く）の環境に係わる性能を“総合的に”評価するものである。
- ・このため、CASBEE京都-既存の評価対象は建物本体に限らず、外構、建物利用者の持ち込み機器、建物供給側から利用者への情報提供、更には部材製造段階や施工現場における取組までを含む。
- ・この中には建物供給側が直接的に携わることが困難な取組も含まれるが、環境に及ぼす影響が小さくないと判断されるものは基本的に評価する方針とする。

（評価方法の考え方）

- ・CASBEE京都-既存は一部の専門家のためのツールではなく、建築に携わる様々な人が使うことを意識して開発している。このため、評価者に負担をかけないことを優先し、できるだけ簡易な評価方法を採用している。
- ・具体的には、調査・実測や複雑な数値解析を使わずを得ない評価方法ではなく、簡易な計算や、環境に配慮した取組の数で評価する方法を優先的に採用している。

（レベル設定の考え方）

- ・採点のレベル設定においては、基本的には現在建設される一般的な建築物がレベル3となるようにしている。
- ・ただし、今後特に普及を促進すべきと考えた取組は、現状では比較的高度な場合であってもレベル3と設定したものもある。

2. 評価の手順

2.1 評価フロー

CASBEE京都-既存の評価は、一般的に図2.1に示すフローで行われる。まず、「PartⅢ 2 採点基準」に基づき対象建物における取組を最高5段階で評価する。次にこの結果をもとに採点することとなるが、この作業を簡略化するために、専用のソフトウェアを用意した。ソフトウェアは、CASBEE全国版をベースとした「標準システム」と京都の独自評価を行う「独自システム」の2つからなる。

標準システムは、項目ごとの取組のレベルを入力すると自動的に採点計算が行われ、BEE値などの評価結果を分かり易く表示するものである。

独自システムは、標準システムによる評価結果から必要な項目を読み取り、入力すると自動的に採点計算が行われ、京都らしい取組の評価結果が得られるものである。

これらのソフトウェアは、京都市のホームページ

(<http://http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/soshiki/9-3-2-0-0.html>)

から無料でダウンロードすることができる。

ソフトウェアを使わずに評価することも可能であるが、採点の計算が複雑になる場合があるため、可能な限りソフトウェアを使用することをお勧めする。

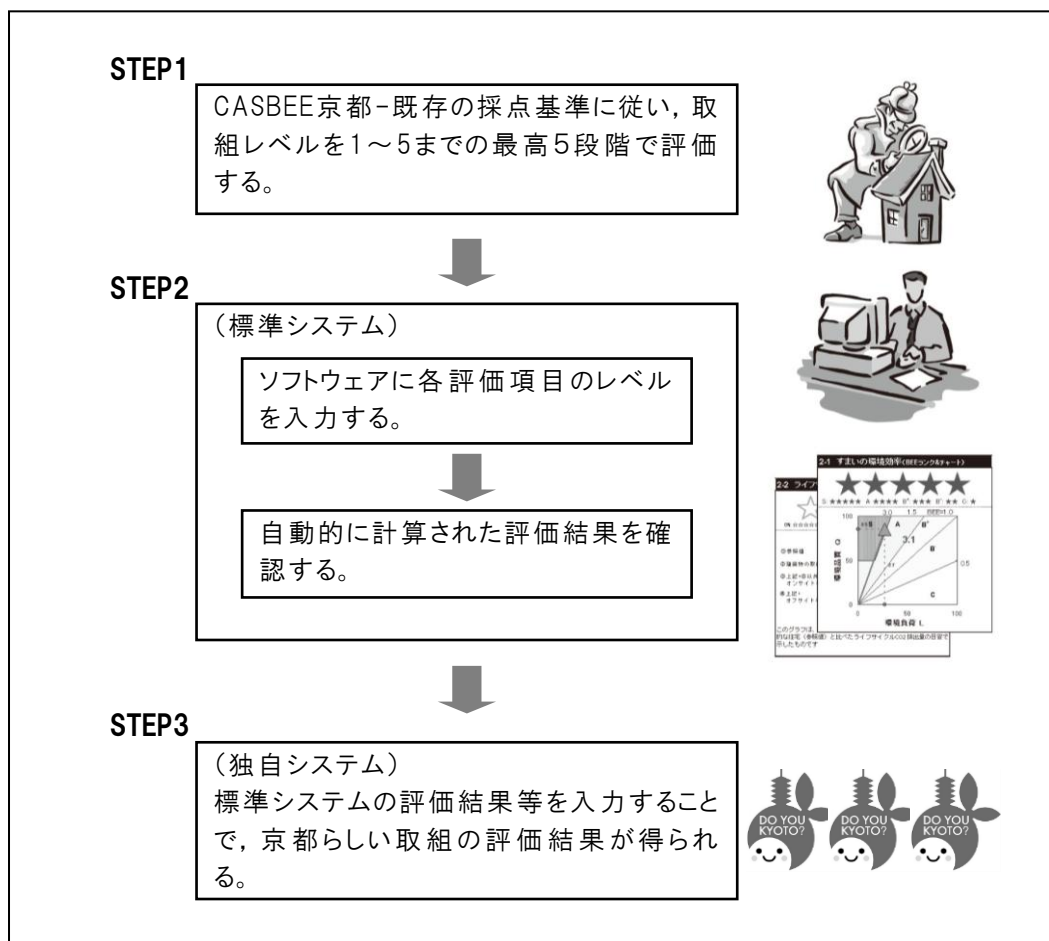


図2.1 CASBEE京都-既存の評価フロー

2.2 ソフトウェアの概要

評価に用いるソフトウェア(名称: CASBEE 京都-既存評価ソフト、以下「評価ソフト」と呼ぶ)は、Microsoft Excel 2007 上で開発されたデータファイルである。したがって、評価ソフトを利用するためには、Microsoft Excel 2007 以上 (あるいは、ファイルが共有できる別のバージョン)が必要である。

標準システムの評価ソフトには、「メイン」「結果」「スコア」「配慮」「係数」「採点Q1」「採点Q2」「採点Q3」「採点LR1」「計画書」「境界値」「採点LR2」「採点LR3」「CO₂計算」「高評価資料」「重み」「条件(標準)」「条件(個別)」「CO₂データ」及び「クレジット」という名称の計20シートが用意されている。このうち主に入力が必要なシートは「メイン」「配慮」「採点Q1」～「採点LR3」「高評価資料」の10シート、更にライフサイクルCO₂を独自計算に基づき評価する場合に入力する「CO₂計算」シート、電気の排出係数を独自に設定する場合に入力する「係数」シートの計12シートである。

独自システムは標準システムの評価ソフト中に「独自システム」の1シートが用意されており、標準システムを入力することにより、自動的に評価結果を得ることができる。

表2.1 入力シートの概要

《標準システム》

名称	概要
メインシート 「メイン」	評価対象となる住宅の基本情報(建物名称、建設地、電力会社、住宅の構造・構法、面積、竣工年など)を入力し、また、温暖化影響チャートの計算タイプを選択する。
採点シート(計6シート) 「採点Q1」～「採点LR3」	各採点項目について、「PartⅢ採点基準」に基づき評価した結果を入力するとともに、具体的な取組を記録する。
計画書シート 「計画書」	採点LR1に付属するもので、省エネルギー計画書、住宅性能表示の等級などを転記する。
配慮事項記入シート 「配慮」	大項目ごとに設計上の配慮事項を入力する。
排出係数シート 「係数」	「メイン」シートで選択した電力会社の電気排出係数を確認できるほか、任意の排出係数を使用する場合に入力する。
LCCO ₂ 計算シート 「CO ₂ 計算」	「メイン」シートで温暖化影響チャートの計算タイプを「個別計算」とした場合に、評価者が独自に算定した評価対象住宅のライフサイクルの段階ごとにCO ₂ 排出量などを入力する。
高評価資料シート 「高評価資料」	高評価項目(スコアが3を超える項目)が自動的に抽出される。環境配慮設計の概要、根拠資料、根拠資料の図面番号等を記入する。

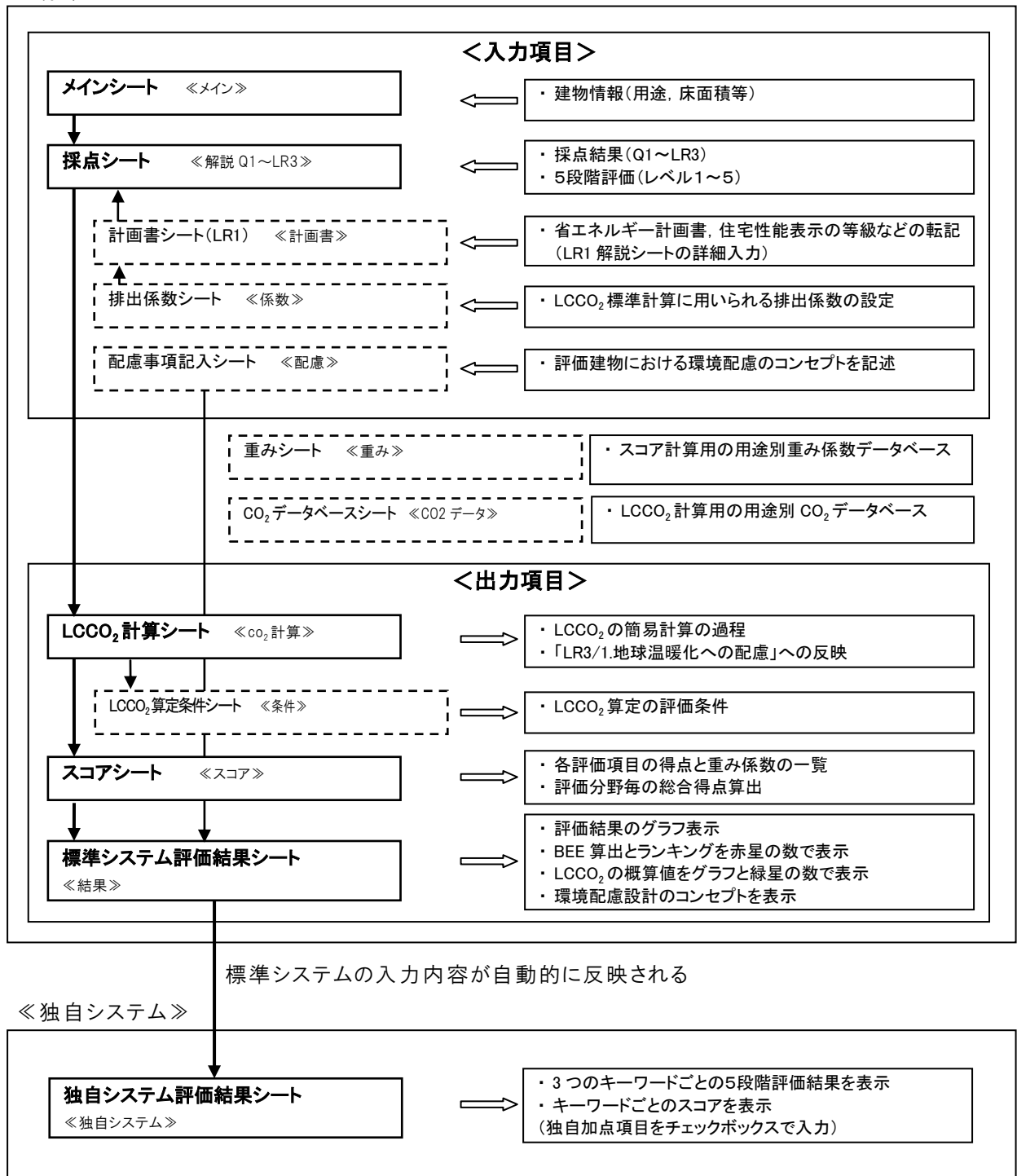
《独自システム》

名称	概要
独自システム結果評価シート 「独自システム」	標準システムを入力することにより、自動的に評価結果を得ることができる。ウッドマイレージ計算書の数値を転記し、また、京都にふさわしい維持管理の評価項目をチェックする。

上記入力用のシートの入力順序は特に決められていないが、全ての情報が入力されていないと、「結果」シートが完成されないので注意する。入力終了すると、「重み」「CO₂データ」シートの情報を使い自動的に計算が行われ、「結果」シートに評価結果が表示される仕組みとなっている。また、入力したレベルや具体的な取組は「スコア」シートで、ライフサイクルCO₂の計算過程の値は「CO₂計算」シートで確認することができる。

2.3以降に、各シートの入力の仕方や確認の仕方を解説する。なお、「LCCO₂計算」シートの解説は、「PartⅣ2.ライフサイクルCO₂について」に示す。

≪標準システム≫



注) ≪≫内はEXCELのシート名

図2.2 評価ソフトの構成

2.3 標準システムの入力

(1)メインシートの入力

評価ソフトを起動すると、始めにこのシートが表示される。シートの表示例を図2.3に示す。

CASBEE® 京都-既存			
評価ソフト(標準システム)			
バージョン		CASBEE京都-既存2015(v.1.0)	
■使用評価マニュアル:		CASBEE京都-既存(2015年版)	
1) 概要入力			
① 建物概要			
■建物名称	〇〇ビル		
■建設地・気候区分	京都市〇〇区〇〇	6地域	
■地域・地区	商業地域、防火地域		
■竣工年(予定/竣工)	2003年6月	竣工	
■敷地面積	XXX m ²		
■建築面積	XXX m ²		
■延床面積	3,000.00 m ²		
■建物用途名	〇〇		
	事務所		
■階数	地上〇〇F		
■構造	RC造		
■平均居住人員	XX 人(想定値)		
■年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)		
② 評価の実施			
■評価の実施	2015年7月8日		
■作成者	〇〇〇		
■確認日	2015年7月10日		
■確認者	〇〇〇		
■LCCO2の計算	標準計算 → LCCO2算定条件シート(標準計算)を入力		
2) 個別用途入力			
① 用途別延床面積			
事務所	3,000.00 m ²	事務所	3000.00 m ²
		官公庁	m ²
学校	0.00 m ²	幼稚園・保育園	m ²
		小・中学校	m ²
		高校	m ²
物販店	0.00 m ²	大学・専門学校	m ²
		デパート・スーパー	m ²
飲食店	m ²	その他物販	m ²
集会所	0.00 m ²	劇場・ホール	m ²
		展示施設	m ²
工場	m ²	スポーツ施設	m ²
病院	m ²		
ホテル	m ²		
非住宅 小計	3,000.00 m ²		
集合住宅	0.00 m ²	専用部	m ²
		共用部	m ²
② 住居・宿泊部分の比率			
■病院の延床面積のうち、病室部分の床面積の比率		小数値(「0.9」など)で比率を入力して下さい。	
■ホテルの延床面積のうち、宿泊部分の床面積の比率		小数値(「0.9」など)で比率を入力して下さい。	
■集合住宅の延床面積のうち、住戸部分の床面積の比率		0.00	
3) 結果出力			
スコアシート	●スコア		
評価結果表示シート	●結果 ●LCCO2計算		
LCCO2算定条件シート	●標準計算 ●個別計算		
用途名	含まれる用途		
事務所	事務所、庁舎、図書館、博物館、郵便局 など		
学校	小学校、中学校、高等学校、大学、高等専門学校、専修学校、各種学校 など		
物販店	百貨店、マーケット など		
飲食店	飲食店、食堂、喫茶店 など		
集会所	公会堂、集会場、ボーリング場、体育館、劇場、映画館、展示施設 など		
工場	工場、車庫、倉庫、観覧場、卸売市場、電算室など		
病院	病院、老人ホーム、身体障害者福祉ホームなど		
ホテル	ホテル、旅館など		
集合住宅	集合住宅(戸建は対象外)		

図2.3 「メイン」シートの表示例

※はじめは全ての入力欄が空欄である。この図では、参考のために入力例を示す。

1) 概要入力

① 建物概要

評価建物の基本情報（名称，用途，規模等）を入力する。これらの情報は各シート及び，評価結果シートに自動的に転記される。

平均居住人員と年間使用時間は，直接CASBEEの評価に関わるものではないが，参考情報として可能な限り入力すること。

表2.2 建物概要欄の入力項目と入力例

入力項目	入 力 例	入力項目	入 力 例
建物名称	〇〇ビル	延床面積 ²⁾	〇〇〇(数値)
建設地・気候区分	京都市〇〇区	建物用途名	事務所，学校，集合住宅
地域・地区	商業地域，防火地域	(建物用途) ³⁾	庁舎，大学
地域区分	地域区分Ⅴ ¹⁾	階数	+〇〇F
竣工年	2011.12	構造	S 造
敷地面積	〇〇〇(数値)	平均居住人員	〇〇〇(数値)
建築面積	〇〇〇(数値)	年間使用時間	〇〇〇(数値)

- 1) 地域区分は，「住宅に係るエネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準」(平成25年経済産業省・国土交通省告示第1号)別表第4による1～8の8地域から，京都市においては6を選択する(集合住宅の場合のみ入力)。
- 2) 延床面積は，用途別延床面積の欄に入力した値の合計が自動的に本欄に反映される。
- 3) この欄は，用途別延床面積の欄で選択された用途が自動的に表示されるものであり，CASBEEの評価上の用途構成を表している。より詳細な用途名は，上欄の「建物用途名」に任意で入力ができる。

② 評価の実施

評価実施の日付，評価者を入力する。評価内容の確認者が別にいる場合は，確認日と確認者の欄へ記入する。

2) 個別用途入力

① 用途別延床面積

建物用途は，表2.3の中から最も該当するものを選択する。各用途にそれぞれの面積を入力する。評価対象とする建築物のより具体的な用途名は，1)概要入力の「建物用途名」欄に入力する。なお，事務所，学校，物販店，集会所の各用途においては，詳細用途別に入力する。

② 住居・宿泊部分の比率

住宅系用途の建築物を評価する場合は，＜建物全体・共用部分＞と＜住居・宿泊部分＞の床面積比を入力する。(病院では病室部分，ホテルでは宿泊室部分の占める割合を0～1.0までの値で入力する。集合住宅は「①用途別延床面積」に入力した専用部，共用部の面積から自動計算される。非住宅系用途の建築物では入力しない。)

表2.3 用途別延床面積の入力上の区分

用途区分	用途名	詳細用途	含まれる用途
非住宅系用途	事 務 所	事務所，官公庁	事務所，庁舎，図書館，博物館，郵便局など
	学 校	幼稚園・保育園， 小・中学校， 高校，大学・専門学校	小学校，中学校，高等学校，大学，高等専門学校，専修学校，各種学校など

非住宅系用途	物 販 店	デパート・スーパー、 その他物販	百貨店、マーケットなど
	飲 食 店		飲食店、食堂、喫茶店など
	集 会 所	劇場・ホール、展示施設、 スポーツ施設	公会堂、集会場、ボーリング場、体育館、劇場、 映画館、ぱちんこ屋、展示施設など
	工 場		工場、車庫、倉庫、観覧場、卸売市場、電算室 など
住宅系用途	病 院		病院、老人ホーム、身体障害者福祉ホームなど
	ホ テ ル		ホテル、旅館など
	集合住宅		集合住宅(戸建は対象外)

3) 結果出力

結果出力欄の「スコア」、「結果」、「LCCO₂計算」等を選択すると、各々のシートを画面上に呼び出すことができる。

(2) 採点シートの入力

採点シートには各用途における採点基準表が表示されており、評価項目毎に、レベル1からレベル5までの5段階の採点基準を解説している。評価者はその表に従って採点を行う。

表 2.4 採点シートにおける主要な構成項目

構成項目	説 明
採点欄	採点結果をレベル1～5(又は対象外)のプルダウンで選択
採点基準欄	各項目の採点基準を表示
評価する取組欄	一部の項目で採用されている採点方法。環境配慮を行う上で配慮すべき事項がリスト化されており、該当項目を選択することで採点する
重み係数(規定)欄	用途により規定されている重み係数を表示(変更不可)

1) 採点基準

図2.4に示すように、採点シートには各用途における採点基準表が表示されており、評価者はその表に従って採点を行う。＜建物全体・共用部分＞は全用途共通に採点する項目である。住宅系用途の場合は、Q1とQ2の採点シートについて、＜住居・宿泊部分＞の採点基準と評価欄が用意されており、これについても採点を行う。

採点基準は、項目毎にレベル1～5の段階設定がされており、採点欄ではそのレベル数をプルダウンで選択(レベル3の場合は3を選択)する。対象建築物の個別条件によって採点基準をそのまま適用できないような場合、一部の評価項目で「対象外」を選択することができる(対象外とできる項目はマニュアルの解説中に記載されている)。対象外を選択した場合、特に示されない限り、対象外とした項目の重みが「0」で計上され、それ以外の項目の重みに比例配分される。

Q1 室内環境

色欄について、プルダウンメニューから選択、または数値・コメントを記入のこと

実施設計段階

1 音環境

1.1 騒音

1.1.1 室内騒音レベル

dB(A)

建物全体・共用部分				住居・宿泊部分			
重み係数(既定) = 0.50				重み係数(既定) = 0.00			
レベル 3.0	事・病(待)・ホ・工・住	学(大学等)・病(診)		レベル 3.0	病・ホ・住		
レベル 1	50 < [騒音レベル]	45 < [騒音レベル]	5	レベル 1	50 < [騒音レベル]	45 < [騒音レベル]	5
レベル 2	(該当するレベルなし)	(該当するレベルなし)		レベル 2	(該当するレベルなし)	(該当するレベルなし)	
■レベル 3	45 < [騒音レベル] ≤ 50	40 < [騒音レベル] ≤ 45	4	■レベル 3	45 < [騒音レベル] ≤ 50	40 < [騒音レベル] ≤ 45	4
レベル 4	40 < [騒音レベル] ≤ 45	35 < [騒音レベル] ≤ 40	3	レベル 4	40 < [騒音レベル] ≤ 45	35 < [騒音レベル] ≤ 40	3
レベル 5	[騒音レベル] ≤ 40	[騒音レベル] ≤ 35	2	レベル 5	[騒音レベル] ≤ 40	[騒音レベル] ≤ 35	2

Q1 室内環境			
1 音環境			
1.1 騒音			
1.1.1 室内騒音レベル			
建物全体・共用部分			
レベル 3.0	事・病(待)・ホ・工・住		
レベル 1	50 < [騒音レベル]		
レベル 2	(該当するレベルなし)		
■レベル 3	45 < [騒音レベル] ≤ 50		
レベル 4	40 < [騒音レベル] ≤ 45		
レベル 5	[騒音レベル] ≤ 40		

プルダウンメニューから
1～5、対象外を選択

図2.4 採点シート画面

2) 評価する取組

一部の採点項目(特に「Q3 室外環境(敷地内)」, 「LR3 敷地外環境」)においては、採点基準表に付属する「評価する取組」表に示される取組度合いをチェックすることで採点を行う。「評価する取組」表には、環境配慮設計を行う上で、配慮すべき事項がチェック項目又は手法のリストとしてまとめられている。リストに示される個々の取組の有無を評価し、与えられるポイントの合計点数(又は項目数)により項目の採点を行う。

Q3 室外環境(敷地内)

色欄について、プルダウンメニューから選択、または数値・コメントを記入のこと

1 生物環境の保全

レベル 3.0		重み係数(既定) = 0.30
事・学・物・飲・会・病・ホ・工・住		
レベル 1	生物環境の保全に関して配慮に欠け、取組が不十分である。(評価ポイント0～2)	
レベル 2	生物環境の保全に関して配慮されているが、取組が十分とはいえない。(評価ポイント3～5)	
■レベル 3	生物環境の保全に関して配慮されており、標準的な取組が行われている。(評価ポイント6～8)	
レベル 4	生物環境の保全に関して配慮されており、比較的多くの取組が行われている。(評価ポイント9～11)	
レベル 5	生物環境の保全に関して十分配慮されており、充実した取組が行われている。(評価ポイント12以上)	

評価する取組

採点	評価項目	評価内容	評価ポイント
1 ポイント	生物資源の保存	① プルダウンメニューから0ポイント、1ポイント、2ポイント、3ポイント、対象外を選択	1
3 ポイント	緑の量の確保	1) 緑の量の確保	1～3
2 ポイント		2) 建物緑化指数が、5%以上20%未満を示す規模の建築物の緑化を行っている。(1ポイント)	1～2
		建物緑化指数が、20%以上を示す規模の建築物の緑化を行っている。(2ポイント)	
1 ポイント		1) 自生種の保全に配慮した緑地が形成されている。	1
0 ポイント	緑の質の維持	2) 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地が形成されている。	1
0 ポイント		3) 野生動物の生息・繁殖に配慮した緑地が形成されている。	1
0 ポイント		4) 周辺における生物環境に関わる立地環境特	1
0 ポイント	IV 生物資源	5) 極力農業等化学物質を使用しない維持	1
0 ポイント		6) 見しめる環境や施設等を確保している。	1
0 ポイント	V その他	1) 上記の評価項目以外に生物環境の保全と創出に資する独自の取組を行っている。	1
合計 =		7ポイント	

図2.5 「評価する取組」方式の採点シート

3)LR1 エネルギーの採点方法

「LR1エネルギー」の採点項目では、省エネ法に基づく、建築物の省エネルギー基準を一部項目に採用している。「1.建物外皮の熱負荷抑制」ではBPIまたはモデル建物法によるBPI_mにより評価する(住宅の場合には品確法の断熱等性能等級)。

「3.設備システムの高効率化」では、BEIまたはモデル建物法によるBEI_mを用い、一次エネルギー消費率により評価する。これら2項目の評価に当たっては、図2.6に示す「計画書シート」において入力を行う。具体的には、省エネルギー基準に基づき外皮性能、基準一次エネルギー消費量、設計一次エネルギー消費量等各々該当する数値を入力する。既に「省エネルギー計画書」又は「住宅性能評価書」を作成している場合には、当該数値を「計画書シート」に転記することにより、「1. 建物外皮の熱負荷抑制」「3. 設備システムの高効率化」の評価を行う。

※ BPI:Building PAL * Index(PALに代わる建物の外皮の熱性能を示す指標)

BEI:Building Energy Index(CECに代わる建物のエネルギー消費率を示す指標)

■ LR1 「省エネルギー計画書」等からの必要事項の転記				■ 建物名称 ○○ビル																																																		
1 建物の外皮性能 [BPI]での評価 レベル BPIによる評価の場合 BPI_mによる評価の場合 地域 [6地域] LR1/1. 建物外皮の熱負荷抑制 非住宅用途 BPI= 1.000 <table border="1"> <tr> <td>1~7地域</td> <td>8地域</td> </tr> <tr> <td>レベル 2.0</td> <td>レベル 2.0</td> </tr> <tr> <td>レベル 2.0</td> <td>レベル 2.0</td> </tr> </table> 床面積 3,000 m²(工場除く) 比率 1.00 建物全体 レベル 2.00 住宅用途 品確法 対象外 レベル 1.0 0 m² 0.00						1~7地域	8地域	レベル 2.0	レベル 2.0	レベル 2.0	レベル 2.0																																											
1~7地域	8地域																																																					
レベル 2.0	レベル 2.0																																																					
レベル 2.0	レベル 2.0																																																					
3 建物の一次エネルギー消費量 モデル建物法[BEI_m]での評価 BEI_m(オンサイト分含まない)= 1.000 床面積 3,000 LR1/3.1 設計仕様に基づく評価 LR1/3.2 実績値を用いた総合評価 (1)補正 (2)実測値 LR1/3. 設備システムの高効率化 ■基準一次エネルギー消費量 うち、その他エネルギー消費量(家電・調理分) ■設計一次エネルギー消費量(1) ■設計一次エネルギー消費量(2)※ ■太陽光発電等エネルギー総量(③オンサイトの取組) BEI(1) - BEI(2) - ※設計一次エネルギー消費量(2): 省エネルギー計算でBEIを求める際の設計一次エネルギー消費量(1)に、 ③オンサイトの取組で評価するエネルギー消費削減量(太陽光発電分等)を差し戻した一次エネルギー量 非住宅用途 BEI_m= 1.000 レベル 3.0 床面積 3,000 レベル 3.0 レベル 2.0 レベル 2.0 レベル 2.0 共用部 専有部(全戸合計) 一次エネルギー消費率= 0.80 1.00 ※専有部は家電・調理分除く レベル 4.5 レベル 4.0 0 0 レベル																																																						
<table border="1"> <tr> <td>1,500</td> <td>1,200</td> <td>GJ/年</td> </tr> <tr> <td>1,200</td> <td>0</td> <td>GJ/年</td> </tr> <tr> <td>1,200</td> <td>1,200</td> <td>GJ/年</td> </tr> <tr> <td>1,500</td> <td>1,200</td> <td>GJ/年</td> </tr> <tr> <td>0.80</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1.00</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ←簡易計算から転記してよい						1,500	1,200	GJ/年	1,200	0	GJ/年	1,200	1,200	GJ/年	1,500	1,200	GJ/年	0.80			1.00																																	
1,500	1,200	GJ/年																																																				
1,200	0	GJ/年																																																				
1,200	1,200	GJ/年																																																				
1,500	1,200	GJ/年																																																				
0.80																																																						
1.00																																																						
■ 住戸部その他エネルギー(家電・調理分)の簡易計算 <table border="1"> <thead> <tr> <th>面積比率</th> <th>延面積(m²)</th> <th>α M</th> <th>住戸数</th> <th>β M</th> <th>EM</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>い(30㎡未満)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td>12,181</td> <td>0</td> <td>0 GJ/年</td> </tr> <tr> <td>ろ(30㎡以上, 60㎡未満)</td> <td>0</td> <td>87</td> <td></td> <td>9,571</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>は(60㎡以上, 90㎡未満)</td> <td>0</td> <td>167</td> <td></td> <td>4,771</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>に(90㎡以上, 120㎡未満)</td> <td>0</td> <td>47</td> <td></td> <td>15,571</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ほ(120㎡以上)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td>21,211</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>0.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						面積比率	延面積(m ²)	α M	住戸数	β M	EM	計	い(30㎡未満)	0	0		12,181	0	0 GJ/年	ろ(30㎡以上, 60㎡未満)	0	87		9,571	0		は(60㎡以上, 90㎡未満)	0	167		4,771	0		に(90㎡以上, 120㎡未満)	0	47		15,571	0		ほ(120㎡以上)	0	0		21,211	0		合計	0.0					
面積比率	延面積(m ²)	α M	住戸数	β M	EM	計																																																
い(30㎡未満)	0	0		12,181	0	0 GJ/年																																																
ろ(30㎡以上, 60㎡未満)	0	87		9,571	0																																																	
は(60㎡以上, 90㎡未満)	0	167		4,771	0																																																	
に(90㎡以上, 120㎡未満)	0	47		15,571	0																																																	
ほ(120㎡以上)	0	0		21,211	0																																																	
合計	0.0																																																					
■ 算定プログラムを使わない場合の評価 (以下の3カ所を必ず選択して下さい) 「住宅に係るエネルギーの合理化に関する設計、施工及び維持保全の指針」に定められる「一次エネルギー消費量に関する基準」を満たし、且つ日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を満たす場合はレベル4と評価することができる。上記を満たさない場合はレベル1を選択する。 採点レベル 算定プログラムによる評価																																																						
暖房方式 - 冷房方式 - A: 単位住戸全体を暖房する方式 B: 居室のみを暖房する方式(連続運転) C: 居室のみを暖房する方式(間歇運転) -: 上記以外(不明な場合を含む) a: 単位住戸全体を冷房する方式 b: 居室のみを冷房する方式(間歇運転) -: 上記以外(不明な場合を含む)																																																						

図2.6 「計画書シート」(入力例, 抜粋)

4) 複合用途建築物の採点方法

複合用途建築物の評価を行う場合は、評価者自らにより、含まれる各用途のレベル(得点)をそれぞれの面積割合により加重平均した結果を入力する。各用途での結果を評価項目毎に面積加重平均し、結果を整数でCASBEE京都-既存の評価ソフトに入力(プルダウンから選択)する。平均の結果は四捨五入した整数とする。より詳細な評価を行う場合には、加重平均した小数値を含む値を採点欄に直接数値入力することもできる。

LR1エネルギーの評価では、複合用途建築物の場合「計画書シート」において住宅用途、非住宅用途それぞれに「省エネルギー計画書」又は「住宅性能評価書」からの数値の転記欄が設けられているので、用途毎に数値を入力すればよい。全用途における採点レベルの面積加重平均(自動計算)により、評価を行う。

(3) 配慮事項記入シートへの入力

評価建物の環境配慮の全体像を第三者が把握し易くするために、環境配慮設計における配慮事項を記述する。記述内容は評価結果シートの「3.設計上の配慮事項」に表示される。

配慮事項記入シートの、「総合」、「Q1」～「LR3」、「その他」の各欄に記述する(自由記述)。「総合」欄には、建物全体におけるコンセプトを、「Q1」～「LR3」欄には、各評価項目に関連する事項を記述する。「その他」の欄には、「Q1」～「LR3」において評価されない「その他」の環境配慮の取組を記載する。

■ 環境設計の配慮事項		■ 建物名称	○○ビル
計画上の配慮事項			
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。		
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。		
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。		
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。		
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。		
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。		
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。		
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。		

図2.7 「配慮事項記入シート」

(4) 排出係数シートの確認と入力

CO₂排出量の計算に用いる電気の排出係数は、評価者が評価の目的に従って、適切な数値を選択する。なお、評価ソフトでは、特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令第2条第4項に基づく、実排出係数及び代替値のCASBEE 2014年版改定時の最新値(平成24年の実績値、平成25年12月公表)、及びその他の数値として評価者が選定した適切な排出係数(任意)を使うことができるようにした。図2.8に示す「係数」シート画面より、電気の排出係数を選択、設定する。

排出係数の設定

標準計算に用いる電力の排出係数(設定値)

電力事業者名/根拠等	排出係数
関西電力株式会社	0.000514 (t-CO ₂ /kWh)

(1) 評価条件として、与えられた排出係数を用いる場合

☐ 電力事業者名/根拠等 排出係数 (t-CO₂/kWh)

(2) 温暖化対策推進法に基づく温室効果ガス排出量の算定方法を参考とする場合

① 電気事業者(一般電気事業者及び特定規模電気事業者(PPS))から供給された電気

事業者名	排出係数
関西電力株式会社	0.000514 (t-CO ₂ /kWh)

② その他

☐ 電力事業者名/根拠等 排出係数 (t-CO₂/kWh)

③ 代替値

根拠等	排出係数
代替値	排出係数 (t-CO ₂ /kWh)

(3) 上記以外の場合

☐ 電力事業者名/根拠等 排出係数 (t-CO₂/kWh)

平成24年度の電気事業者別実排出係数等の公表値

◇算定省令に基づく電気事業者ごとの実排出係数及び代替値

[1]実排出係数

北海道電力株式会社	0.000688
東北電力株式会社	0.000600
東京電力株式会社	0.000525
中部電力株式会社	0.000516
北陸電力株式会社	0.000663
関西電力株式会社	0.000514
中国電力株式会社	0.000738
四国電力株式会社	0.000700
九州電力株式会社	0.000612
沖縄電力株式会社	0.000903
イーレックス株式会社	0.000603
出光グリーンパワー株式会社	0.000086
伊藤忠エネクス株式会社	0.000676
エネサード株式会社	0.000616
産業環境プラント株式会社	0.000456
王子製紙株式会社	0.000475
オリックス株式会社	0.000762
株式会社イーセル	0.000000
株式会社エネット	0.000429
株式会社F-Power	0.000525
株式会社G-Power	0.000441
株式会社日本セレモニー	0.000797
サミットエナジー株式会社	0.000438
JX日鉱日石エネルギー株式会社	0.000367
JENホールディングス株式会社	0.000494
志賀高原リゾート開発株式会社	0.000312
昭和シェル石油株式会社	0.000367
新日鉄住金エンジニアリング株式会社	0.000655
東北天然ガス発電株式会社	0.000388
ダイヤモンドパワー株式会社	0.000431
テス・エンジニアリング株式会社	0.000494
東京エコスサービス株式会社	0.000082
日本デテック株式会社	0.000508
日本ロジテック協同組合	0.000486
パナソニック株式会社	0.000498
プレミアムグリーンパワー株式会社	0.000018
丸紅株式会社	0.000378
ミツウロコグリーンエネルギー株式会社	0.000366
リエスパワー株式会社	0.000420 (t-CO ₂ /kWh)

[2]代替値

代替値	排出係数
代替値	0.000550 (t-CO ₂ /kWh)

図2.8 「係数」シート

(1) 評価条件として、与えられた排出係数を用いる場合

「(1)」にチェックして、根拠等を記述し、排出係数を入力する。

<例>

補助事業への応募(募集者が指定)、コンペ・プロポーザルへの応募(募集者が指定) など

(2) 地球温暖化対策の推進に関する法に基づく温室効果ガス排出量の算定方法を参考とする場合

以下①～③の中から選択、入力する。

① 電気事業者(一般電気事業者及び特定規模電気事業者(PPS))から供給された電気の使用を想定している場合は国が公表する電気事業者ごとの排出係数を用いる。

→「①」にチェックして、メニューに示されている電気事業者を選択する。

(2) 温暖化対策推進法に基づく温室効果ガス排出量の算定方法を参考とする場合

① 電気事業者(一般電気事業者及び特定規模電気事業者(PPS))から供給された電気

事業者名	排出係数
中国電力株式会社	排出係数 (t-CO ₂ /kWh)
四国電力株式会社	
九州電力株式会社	排出係数 (t-CO ₂ /kWh)
沖縄電力株式会社	
イーレックス株式会社	排出係数 (t-CO ₂ /kWh)
株式会社エネット	
株式会社F-Power	

図2.9 プルダウンによる電気事業者の選択

- ② 上記以外の者から供給された電気の使用を想定している場合は、①の係数に相当する係数で、実測等に基づく適切な排出係数を入力する。

→「②」にチェックして、排出係数と事業者名を入力する。

- ③ ①及び②の方法で想定できない場合は、①及び②の係数に代替するものとして環境大臣・経済産業大臣が公表する係数(代替値)を選択する。

→「③」にチェックする。

注) 電気事業者毎の排出係数(実排出係数・調整後排出係数)及び代替値は国が認めた値が毎年度公表されるため、CASBEEの評価ソフトの改訂の有無を確認のこと。なお、評価ソフトが対応できていない場合でも、環境省のホームページなどで確認のうえ、「(3)上記以外の場合」の欄に最新の値を入力することで、これを用いることができる。

(3) 上記以外の場合

「(3)」にチェックして、根拠等を記述し、排出係数を入力する。

(5) LCCO₂ 計算シート

図2.10にライフサイクルCO₂(LCCO₂)計算シートを示す。本シートでは、「採点シート」と「計画書シート」に入力した内容に従って自動計算されるLCCO₂(標準計算)の計算過程を表示する。

建設段階、修繕・更新・解体段階、運用段階の各段階について、「参照値」(基準となる建物＝全ての評価項目でレベル3相当)と「評価対象」のCO₂排出量がkg-CO₂/年m²で表示される。

CASBEE京都-既存(2015年版)		■使用評価マニュアル: CASBEE京都-既存(2015年版)	
QOEL		■評価ソフト: CASBEE京都-既存2015(v.1.0)	
ライフサイクルCO₂計算シート(標準計算用)			
		評価対象	参照値
1. 建設に係るCO₂排出量 1-1. 評価結果のCO₂排出量への置き換え Q2/2.2.1 躯体材料の耐用年数			
延床面積比率		レベル3	レベル4
事務所	1.00	13.23	13.23
学校	0.00	11.76	11.76
物販店	0.00	22.39	22.39
飲食店	0.00	22.39	22.39
集会所	0.00	12.47	12.47
工場	0.00	22.50	22.50
病院	0.00	12.26	12.26
ホテル	0.00	12.77	12.77
集合住宅	0.00	19.62	9.81
評価対象の構造	RC造		
LR2/2.2 既存建築躯体等の継続使用	0%		
LR2/2.3 躯体材料におけるリサイクル材(高炉セメント)	0%		
1-2. 合計の計算		13.23	13.23
2. 修繕・更新・解体に係るCO₂排出量 2-1. 評価結果のCO₂排出量への置き換え Q2/2.2.1 躯体材料の耐用年数			
延床面積比率		レベル3	レベル4
事務所	1.00	16.46	16.46
学校	0.00	12.42	12.42
物販店	0.00	13.19	13.19
飲食店	0.00	7.74	7.74
集会所	0.00	13.43	13.43
工場	0.00	9.42	9.42
病院	0.00	16.05	16.05
ホテル	0.00	13.94	13.94
集合住宅	0.00	8.37	9.74
2-2. 合計の計算		16.46	16.46
3. 運用時のエネルギーに係るCO₂排出量 3-1. 建築物の取組(②)			
床面積	一次エネルギー消費量 GJ/年	CO ₂ 換算係数	kg-CO ₂ /年m ²
非住宅部	3,000	7,273	0.0531275
住宅 専有部(住戸全体)	0	0	0.0554206
住宅 共用部	0	0	0.0526639
3-2. 上記①以外のオンサイト手法(③)	削減分	評価建物③	kg-CO ₂ /MJ
非住宅部	3,000	0	0.0539661
住宅 専有部(住戸全体)	0	0	0.0554206
住宅 共用部	0	0	0.0526639
4. ライフサイクルCO₂の計算(標準計算)			
建設		13.23	13.23
修繕・更新・解体		16.46	16.46
運用		143.91	128.79
合計		173.60	158.48

図2.10 「ライフサイクルCO₂計算シート」(出力例)

・「LCCO₂算定条件シート(標準計算)」

標準計算で評価を実施している場合は、LCCO₂計算に用いられている評価条件がLCCO₂算定条件シート(標準計算)に表示される。代表的な資材の量や環境負荷原単位、エネルギーのCO₂排出係数等が計算根拠として表示される。

■LCCO ₂ 算定条件シート(標準計算)		■建物名称		〇〇ビル
CASBEE京都-既存2015(v.1.0)				
項目		参照値(参照建物)	評価対象	備考
建物概要	建物用途	事務所	事務所	
	建物規模	3,000㎡	3,000㎡	
	構造種別	RC造	RC造	
ライフサイクル設定	想定耐用年数	事務所部分60年	事務所部分60年	
建設段階	CO ₂ 排出量	13.23	13.23	kg-CO ₂ /年㎡
	エンボディドCO ₂ の算定方法	日本建築学会による2005年産業連関表分析による日本の平均値	左記からの、リサイクル建材の採用による削減量を推定して算定	
	CO ₂ 排出量原単位の出典	日本建築学会による2005年産業連関表分析による分析結果	同左	
	パウンダリー	国内消費支出分	同左	
	代表的な資材量			
	普通コンクリート	0.77	0.77	m ³ /㎡
	高炉セメントコンクリート	0.00	0.00	m ³ /㎡
	鉄 骨	0.04	0.04	t/㎡
	鉄 筋	0.10	0.10	t/㎡
	木 材	0.01	0.01	t/㎡
	□ □	〇〇	〃	kg/㎡
	代表的な資材の環境負荷			
	普通コンクリート	266.71	〃	kg-CO ₂ /m ³
	高炉セメントコンクリート	216.57	〃	kg-CO ₂ /m ³
	鉄 骨	1.28	〃	kg-CO ₂ /kg
	鉄 筋	0.51	〃	kg-CO ₂ /kg
	型 枠	4.75	〃	kg-CO ₂ /㎡
	□ □	〇〇	〃	kg-CO ₂ /kg
	主要なリサイクル建材と利用率			
	高炉セメント (躯体での利用率)	0%	0%	
	既存躯体の再利用 (躯体での利用率)	0%	0%	
	電炉鋼材(鉄筋)	0%	0%	
	電炉鋼材(鋼材)	0%	0%	
修繕・更新・解体段階	CO ₂ 排出量	16.46	16.46	kg-CO ₂ /年㎡
	更新周期(年)			
	外装	25年	25年	
	内装	18年	18年	
	設備	15年	15年	
	平均修繕率(%/年)			
	外装	1%	1%	
	内装	1%	1%	
	設備	2%	2%	
	解体段階のCO ₂ 排出量の算定方法	解体廃棄物量として、2000kg/㎡を仮定して、30kmの道路運送分を評価	同左	
運用段階	CO ₂ 排出量			
	①参照値／ ②建築物の取組	128.79	143.91	kg-CO ₂ /年㎡
	③上記+②以外の オンサイト手法	—	143.91	kg-CO ₂ /年㎡
	④上記+ オフサイト手法	—	143.91	kg-CO ₂ /年㎡
	参考	(a) グリーン電力証書によるカーボンオフセット	—	
		(b)グリーン熱証書によるカーボンオフセット	—	
		(c) その他カーボンクレジット	—	
		(d)調整後排出量(調整後排出係数による)と実排出量の差	—	
	エネルギー消費量の算定方法	評価建物のLRIの取組による省エネルギー量から推計	エネルギー消費量の実績値(工場用途は照明と給湯分)	
	一次エネルギー消費量	7,273	8,000	GJ/年
	エネルギーのCO ₂ 排出係数			
	一次エネルギー-あたり 非住宅	0.0531	同左	kg-CO ₂ /MJ
	同上 住宅(専有部)	0.0554	同左	kg-CO ₂ /MJ
	電力	0.514	同左	kg-CO ₂ /kWh
	ガス	0.0498	同左	kg-CO ₂ /MJ
その他の燃料()	〇〇	同左	kg-CO ₂ /MJ	
上水使用				
その他				

図2.11 「LCCO₂算定条件シート(標準計算)」

なお、既存躯体の再利用と高炉セメントを採用した場合は、それぞれの利用率を本シートに入力する。
この数値が、LCCO₂計算シートの建設段階のCO₂排出量計算に反映される。

項目		参照値(参照建物)	評価対象	備考
建設 段階	高炉セメント (躯体での利用率)	0%	0%	
	既存躯体の再利用 (躯体での利用率)	0%	0%	

図 2.12 「LCCO₂算定条件シート(標準計算)」シートでの高炉セメントの採用率、
既存躯体の再利用率の設定

(6)スコアシートへの入力

評価点は3点を基準とし、3点を上回る得点を与える評価項目については、スコアシート中央の「環境配慮設計の概要記入欄」に、評価の根拠を具体的に記入することを必須とする。採点シートで採点した結果は評価点欄に表示されているのでその結果を確認する。

CASBEE 京都-既存(2015年版)				■使用評価マニュアル: CASBEE 京都-既存(2015年版)				
OQモデル				欄に数値またはコメントを記入		■評価ソフト: CASBEE 京都-既存 2015(v.1.0)		
スコアシート								
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境					0.40	-		3.0
1 音環境				3.0	0.40	-		3.0
1.1 騒音				3.0	0.40			
1.2 遮音				3.0	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能					-			
2 界壁遮音性能				3.0	1.00	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-	

採用対策を具体的に記入
(3点を上回る得点を与える
評価項目の記入は必須)

採用対策を具体的に記入
(3点を上回る得点を与える
評価項目の記入は必須)

図 2.13 スコアシートへの入力方法

CASBEE京都-既存(2015年版)			■使用評価マニュアル CASBEE京都-既存(2015年版)			
OQモデル			■評価ソフト: CASBEE京都-既存 2015(v.1.0)			
スコアシート			欄に数値またはコメントを記入			
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点 重み係数	住居・宿泊部分 評価点 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境						3.0
1 音環境				3.0 0.15	-	3.0
1.1 騒音				3.0 0.40	-	
1.2 遮音				3.0 0.40	-	
1.2.1 開口部遮音性能				3.0 1.00	3.0	-
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0
1.3 吸音				3.0 0.20	3.0	-
2 熱環境				3.0 0.35	-	3.0
2.1 室温制御				3.0 0.50	-	
1 室温				3.0 0.38	-	
2 外気性能				3.0 0.25	3.0	-
3 ソーラー制御性能				3.0 0.38	-	
2.2 湿度制御				3.0 0.20	-	
2.3 空調方式				3.0 0.30	-	
1 上下温度差				3.0 0.50	-	
2 平均気流速度				3.0 0.50	-	
3 光・視環境				3.0 0.25	-	3.0
3.1 昼光利用				3.0 0.30	-	
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)		3.0 0.60	3.0	-
2 方位別開口	●自然	B(推奨内容)		3.0 0.40	3.0	-
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)		3.0 0.30	3.0	-
3.2 グレア対策				3.0 0.40	-	
1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)		3.0 1.00	3.0	-
2 映り込み対策				3.0	-	
3.3 照度				3.0 0.15	3.0	-
3.4 照明制御				3.0 0.25	3.0	-
4 空気質環境				3.0 0.25	-	3.0
4.1 発生源対策				3.0 0.50	-	
1 化学汚染物質				3.0 0.50	3.0	-
2 アスベスト対策				3.0 0.50	3.0	-
4.2 換気				3.0 0.30	-	
1 換気量	●自然	A(全国版準用)		3.0 0.33	3.0	-
2 自然換気性能				3.0 0.33	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0 0.33	3.0	-
4.3 運用管理				3.0 0.20	-	
1 CO ₂ の監視				3.0 0.50	-	
2 喫煙の制御				3.0 0.50	-	

図 2.14 スコアシート画面例(1/2)

図 2.15 スコアシート画面例(2/2)

(7)評価結果シート(標準システム)

図2.16に評価結果シート(標準システム)を示す。評価結果シートでは、Q(建築物の環境品質)、LR(建築物の環境負荷低減性)、BEE(建築物の環境効率)及びLCCO₂排出率の結果がグラフと数値で表示される。

【表示内容】

1 建物概要

2 CASBEEの評価結果

2-1 BEE(Q/L)の評価結果

2-2ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 レーダーチャート

2-4 バーチャート

・Qの評価結果

・LRの評価結果

3 設計上の配慮事項



図2.16 「評価結果」シート(標準システム)(出力例)

2.4 独自システムの入力

図2.17に京都市の独自システムによる評価結果シートを示す。評価結果シートは、「大切に使う」、「ともに住まう」、「自然からつくる」の3つのキーワードに即した取組度の評価結果が、「エコちゃんマーク」による5段階評価で図示されるほか、その根拠となるスコアが表示される。標準システムを入力することにより、自動的に評価結果を得ることができる。

① 標準システム評価結果のスコア

「1 大切に使う」、「2 とともに住まう」、「3 自然からつくる」の3項目それぞれについて、標準システムから京都の独自性を表現するにふさわしい項目が複数抽出されており、それぞれについて、標準システムによる評価結果のスコアが「スコア」と記載された欄に表示される。

② 独自加点項目

京都市独自の評価視点として加えられた推奨内容を満たしている場合には、独自加点項目として「○」が表示される。

③ 「見える化」指標

加点項目とは別に、取組の度合いを分かりやすく示す項目として、「低炭素景観の創出に関する評価」、「ライフサイクルCO₂及びCO₂削減率」、「ウッドマイレージCO₂及びCO₂削減率」、「京都にふさわしい維持管理」の4項目が表示される。

「低炭素景観の創出に関する評価」については、標準システムの該当する項目について、取組をしている数(取組数)が表示される。

「ウッドマイレージCO₂及びCO₂削減率」については、建築物に使用されている木材の量と流通経路とで算定されるので、工事完了後に、京都府地球温暖化防止活動推進センターから発行される「京都府産木材証明書及びウッドマイレージCO₂計算書」を入手したうえで、その数値を転記する。

「京都にふさわしい維持管理」については、取組具合について、独自システムのシートの各項目に対して直接入力する。

■参考)(再掲)

京都府産木材認証制度

<http://www.pref.kyoto.jp/rinmu/14100081.html>

京都府地球温暖化防止活動推進センター(ウッドマイレージCO₂認証制度ページ)

<http://www.kcfca.or.jp/wood/>

1 建物概要 建物名称 〇〇ビル 延床面積 3,000 m<sup>2</sup> 用途 事務所, BEE 0.8 B- ★★ 使用CASBEE評価マニュアル CASBEE京都-既存(2015年版) 使用CASBEE評価ソフト CASBEE京都-既存2015(v.1.0)			
2 重点項目への取組度 キーワード			
1 大切に使う			
2 とともに住まう			
3 自然からつくる			
3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
1 大切に使う 合計点 24 /41			
■長寿命化 合計点 12 /20			
◇メンテナンスの容易性 Q2/ 3.31 空調配管の更新性 スコア 3 Q2/ 3.32 給排水管の更新性 スコア 3 Q2/ 3.33 電気配線の更新性 スコア 3 Q2/ 3.34 通信配線の更新性 スコア 3 Q2/ 3.35 設備機器の更新性 スコア 3 (注 上記5項目のスコアの平均が合計点に算入される)	◇物理的長寿命 Q2/ 2.21 躯体材料の耐用年数 スコア 3 <自由記述> ◇社会的長寿命 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画 スコア 3 Q2/ 3.1.2 空間の形状・自由さ スコア 3 <自由記述>		
■省資源 合計点 12 /20			
LR2/ 2.1 材料使用量の削減 スコア 3 LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 スコア 3 LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 スコア 3 LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組 スコア 3 <自由記述>			
◆独自加算項目 合計点 0 /1			
LR2/ 2.1 材料使用量の削減 LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。 主要構造部において「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。 「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。		
2 とともに住まう 合計点 24 /42			
■自然とともに住まう 合計点 9 /15			
◇自然を感得する計画 Q2/ 1.2.1 広さ感・景観 スコア 3 Q3/ 1 生物環境の保全 スコア 3 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 3 <自由記述>	◇地域環境やコミュニティへの配慮 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 スコア 3 LR3/ 2.2 温熱環境変化の改善 スコア 3 LR3/ 3.3.2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策 スコア 3 <自由記述>		
■歴史とともに住まう 合計点 6 /10			
◇歴史性への配慮 Q2/ 1.2.3 内装計画 スコア 3 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 スコア 3 <自由記述>			
◆独自加算項目 合計点 0 /2			
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観 LR3/ 3.3.2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	京都重点項目による加点により、レベル5を超える。 格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している。または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組を、1以上実施している。		
3 自然からつくる 合計点 32 /53			
■自然材料の利用 合計点 9 /15			
Q2/ 1.2.3 内装計画 スコア 3 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 スコア 3 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 スコア 3 <自由記述>			
■自然環境の利用 合計点 18 /30			
Q1/ 3.1.1 星光率 スコア 3 Q1/ 3.1.3 星光利用設備 スコア 3 Q1/ 3.2.1 星光制御 スコア 3 Q1/ 4.2.2 自然換気性能 スコア 3 <自由記述>	LR1/ 2 自然エネルギー利用 スコア 3 LR2/ 1.2.1 雨水利用システム スコア 3 <自由記述>		
◆独自加算項目 合計点 5 /8			
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 Q1/ 3.1.3 星光利用設備 Q1/ 3.2.1 星光制御 LR1/ 3 設備システムの高効率化	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。 デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の星光利用設備を採用している。 デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の星光利用設備を採用している。 評価する取組のうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニュメントの計画を除く) 上記の内容に加え、利用量が15MJ/m ² ・年以上となる場合。		
4 低炭素量の創出に関する評価(Q3/2)			
☒ Q1/3.1.3 星光利用設備 ☐ Q3/3.2 敷地内温熱環境	☒ Q1/3.2.1 星光制御 ☐ LR3/2.2 温熱環境悪化	☒ Q3/1 生物環境の保全と創出 ☐ LR3/3.3.2 星光の建物外壁による反射	低炭素量 取組数 3/6項目
5 ライフサイクルCO₂とCO₂削減率			
ライフサイクルCO ₂ (ライフサイクルCO ₂ 参照値) CO ₂ 削減率	173.60 kg-CO ₂ /年m ² 188.48 kg-CO ₂ /年m ² 15.12 kg-CO ₂ /年m ²	ライフサイクル CO ₂ 削減率 9.5%	
6 ウッドマイレージCO₂とCO₂削減率			
ウッドマイレージCO ₂ CO ₂ 削減効果	0 kg-CO ₂ 0 kg-CO ₂	ウッドマイレージ CO ₂ 削減率 0%	
7 京都にふさわしい維持管理			
町家型1 木部の塗装がよく維持されている。 町家型2 壁の劣化がよく維持されている。 町家型3 建築当初の良さを積極的に継承・向上している。 町家型4 環境配慮技術が良好に維持管理されている。 町家型5 中間期の通風が確保されている。	☐ 取組 ☐ 取組小 ☐ 取組 ☐ 取組小 ☐ 取組 ☐ 取組小 ☐ 取組 ☐ 取組小 ☐ 取組 ☐ 取組小	近代建築型1 目地から白蟻等が起こっていない。 近代建築型2 仕上材表面がよく清掃管理されている。 近代建築型3 建築当初の良さを積極的に継承・向上している。 近代建築型4 中間期の通風が確保されている。	☐ 取組 ☐ 取組小 ☐ 取組 ☐ 取組小 ☐ 取組 ☐ 取組小 ☐ 取組 ☐ 取組小

「ウッドマイレージ計算書」から転記 : 自由記述入力欄

図2.17 独自システム評価結果シートの表示例

